

個別課題:緩和ケアスクリーニング他
(令和元年7月1日~12月末日)

施設名:	Plan (計画)	Do (実行)	Check (評価)	Act (改善)
7 近畿大学病院	1.緩和ケアスクリーニング(入院) 180件/半年 2.緩和ケアスクリーニング(外来) 800件/半年 3.病棟とのケアカンファレンス 24件/半年 4.地域との情報共有 ①事例検討会+情報共有会3回/年 ②地域の診療所・訪問看護師と連携カンファレンス 20件/半年 5.栄養士と協力して食へのニーズに対応する	1.がんと診断された治療目的の患者を対象にスクリーニングを実施し、各病棟のリンクナースが対象患者を抽出する。 2.外来新規患者に全員に統一したスクリーニングを実施し、早期からの緩和ケアにつなげる。 3.緩和ケアチームが記入している患者に対して、対象病棟を決めて実施する。 4.地域の在宅医・訪問看護師を対象に事例検討会や情報共有を行い、顔の見える関係やこれからの緩和ケアについてを話し合う機会を作る。 5.緩和ケアチームカンファレンスの際に食への情報共有を実施、ニーズに対応した患者に加算数で評価する。	1.緩和ケアスクリーニング(入院) 600件/半年 2.緩和ケアスクリーニング(外来) 1800/半年 3.病棟とのケアカンファレンス実施件数31件/半年。緩和ケアチーム介入開始時に病棟・主治医とカンファレンスを実施。 4.①事例検討会は1回/年。 ②地域の在宅医・訪問看護師と緩和ケアチームが参加したカンファレンスは8件/半年。緩和ケアチームの参加が難しい場合は、病棟看護師と事前に内容の共有を行い、カンファレンスで情報共有が行えるよう調整を行った。 5.2019年7月から加算算定を開始。加算件数としては、61件/5ヶ月。	1.2.ともに数値は現状維持として質を上げるようリンクナースと協働する。 3.病棟とのケアカンファレンスは現状を継続。外来とのカンファレンスは各科開催状況を共有する。 4.地域の在宅医・訪問看護師との連携病院会のシステムの構築。 南河内医療圏の施設と情報共有し、院内のがん診療連携会議でも共有していく。 5.個別栄養食事管理加算100件/半年。